

# 動きだすまでの時間

**高橋陽子**  
(幼稚園教諭)

ルでせつけんの泡作りに専念していました。

幼稚園で子どもと共に過ごしていると、夢中になつている姿や、喜んだり困つたりしている表情、発せられた言葉などから、教師はうれしくなつたり、考え込んだり、心や体が動きだすことがあります。そういうことは子どもと教師の間に起ころるだけではなく、子ども同士の間でも大いに感じあいながら、園での生活は進んでいきます。

遊戯室に、おひな様の七段飾りが飾つてある頃のことです。園舎から出た所で、年中組の十人ほどの子どもたちが、それぞれにボウ

五、六人が保育室から園庭へ出る三段の階段に座つていたでしょうか。一番上にいたA子が「ちょっと、私たち、おひな様みたい」と声を上げました。そこにいた子どもたちは、その声に顔を上げ、「本当だね」という表情をしました。A子が「男、女、男、女つて並んだら、おひな様とお内裏様になる」と言うと、子どもたちはボウルを持って移動し、並び変わつて作業を続けます。今度は「(この段に)女の子だけ、(この段に)男の子だけで並べば、三人官女と五人ばやしみたい」と言うと、ま

高橋陽子（たかはし ようこ）  
お茶の水女子大学附属幼稚園教諭。

たボウルを持つて移動。移動してもクルクルと（この頃子どもたちは、泡立て器を片手でシャカシャカではなく、両手の手のひらに挟んでクルクル回すように使つていました）泡立て器を動かしながら、視線は自分の泡に向けていました。作業に集中しながらも、友達の声に耳を傾け、ひな壇のイメージを重ね、黙々と気持ちを添わせていました。それでいて、自分の手は休めない、その場を包み込むような空気感に私は心を動かされました。四月からほぼ一年間一緒に過ごしてきた時間や一人ひとりの成長などが、このような新しい時間、空間をつくり出しているのだと思いました。

十二月初旬。本園ではお餅つきを行っています。年少児B夫が、朝保育室に入つてくるなり、「お餅、食べないからね」と言いました。新しく出合ったものはなかなか食べようとしない、初めてのことには抵抗を示すなど、入園からのB夫の姿を思えば予測がついたのです



が、堂々と宣言したことに、自分の意思を表していることを感じました。

園庭で繰り広げられる餅つきの様子はよく見ていました。「ちぎり食べ（つきたてのお餅を少しづつ手にもらい、感触を味わつたり食べたりする）するから、お部屋に集まつてね」と声をかけると、他の子どもたち同様、部屋に戻り、椅子に座りました。B夫は、私と目が合つたり、「あつたかいよ」「匂い、かいでもみる?」と声をかけられたりすると体ごと後ろを向いてしまい、最後までお餅に触れることはありませんでした。

年中になり、二度目の餅つきの日。ちぎり食べの時間、B夫は自分にお餅が渡される番が来るまで、体を縮めて首だけ伸ばして、キヨロキヨロとみんなの様子を見ていました。B夫の番になると、「本当は嫌だけど」というような表情をしながらもお餅を受け取り、感触を味わっていました。年中組のこの時期、

友達がすつと受け取り、食べているのを間近に見て、自分が思うほど嫌ではないかもしないと感じたり、少し背伸びして自分を奮い立たせたり、友達の中にいる自分を意識した上での行動だったのかもしれません。

十月に行う運動会では、子どもから声が上がったり、保育の中で教師が子どもを誘つたりして、普段の遊びの中で演目に触れながら当日を迎えます。

年少組の運動会、C夫は遊戯のときに、地面に座り込んでいた数人の中の一人でした。「年中組ではどうなることかしら」と思つていましたが、「今年は、こういう曲で踊つてみようと思うの」と教師が数人と踊つてみると、C夫は仲良しの友達と一緒に近づいてきました。「そんな変なの、やれるかよ」と言つたり、教師をたたいて逃げたり、冷やかしに来た感じでした。

翌日も園庭で何人かで踊っていると、遊戯室の中から「何やつてんだあ」「またやつてんのかあ」と言いながらこつちを見ていました。その時、「あれ？ 手が私たちと同じポーズになっている」と気づき、「こつちで一緒に踊つてみましようよ」と声をかけました。

外には来ましたが、またちょつかいを出してきて、ちつとも一緒に踊る感じにはなりませんでした。

降園後、「遊戯室でのC君たち、こんな感じでしたよ」と写真を見せてもらうと、窓越しに外を見ている彼らの後ろ姿は、手だけではなく、体全部、同じように動いていたのです。「やることはわかっているよ、でも、最初からやつてみるとんでもない！」という気持ちはみる限りの表現だったのでしょうか。数日して、「仕方ない、やるか」と友達の体を腕で押すようにながら踊りの輪に入ってきたC夫の

姿がありました。友達とのつながりができていて心強かったことや、大きくなつた自分を意識し自信を持ち始めたことから、動きだせたように感じました。

仲間に加わるまでの時間、遊具に触れてみるまでの時間、自分のクラス以外の場所に入つてみるまでの時間などいろいろな場面において、一人ひとり動きだすまでの時間やタイミングというものがあります。「やりたいんだ」という意志や「（人や物やことに）かかわりたい」という気持ちがあるからこそ、必要な時間です。安心して、そのままらしく動きだせるまでの時間を保障し、大事にしていきたいと思います。